



第3部 パネルディスカッション



Wetland City Niigata ～自然と共生する都市～

大河津分水1922年通水 弥彦山 634m 角田山 482m

鳥屋野潟

これからも世界の
 ウェットランド シティ ニイガタ
WETLAND CITY NIIGATA
 であり続けるために

提供:新潟市

新潟市面積726.4km²に対し、水田約28,400ha、湖沼・河川約3,660haであり、約44%が湿地といえる。



日本の歴史では、湿地は生産性がないとして、
徹底的に干拓され水田化されてきた。

湿地

(自然)



Wetland City

2015



都市

(人工)

都市は、ヨーロッパの城壁で囲まれた人工的な都市をモデルに、
自由な経済活動を保障する場として、自然の制約からの自由、
人間関係からの自由を希求してきた。

ラムサール条約では対立する湿地と都市を、
湿地都市 Wetland City として融合させた。

2022年までに、Wetland Cityに認証された都市は世界で43都市(17カ国)である。

ラムサール条約湿地都市認証 (Wetland City Accreditation) の基準

グループA 湿地の保全及び賢明な利用の実現に基づく基準	
A1	地方自治体の行政区分に完全にまたは部分的にラムサール条約湿地がある。(A1・A2はどちらかに該当)
A2	地方自治体の行政区分に完全にまたは部分的にそのほかの重要な湿地がある。(A1・A2はどちらかに該当)
A3	湿地の劣化及び損失を防ぐ国及び(または)地域の政策・法的措置・計画等がある。
A4	都市の基盤を形成する要素として湿地を復元・創造した事例がある(洪水の制御、気候緩和、水質向上、レクリエーションの提供など)。
A5	地方自治体の空間計画及び統合的な都市管理において、湿地の重要性が考慮されている。
A6	地域社会が湿地の計画・管理に関与・参加している。
A7	湿地に関する環境教育や情報配信、学校教育への導入等を通じて、湿地の価値に対する社会の意識を醸成し、湿地の賢明な利用を奨励している。
A8	世界湿地の日(2月2日)前後でのイベントの実施を促進している。
A9	地域における湿地の保全や賢明な利用の支援・推進をする地域関係者や利害関係者、有識者等による委員会等の組織がある。
グループB 相補的なアプローチ	
B1	水質及び公衆衛生基準を満たしている。
B2	湿地の恩恵(供給・調整・文化・基盤サービス)が認識され、地方自治体の計画及び政策決定において考慮されている。
B3	地域社会が湿地の賢明な利用に関わり、湿地の恵みを享受している。

1996/11/28~30

ラムサールシンポ新潟開催

新潟市長 明 義川 義明
 ラムサールセンター長 博 司
 環境庁野生生物課長 光 育
 新潟県環境生活部長 船 英
 国際湿地保全連合日本委員会副会長 阿 部 學
 新潟の水辺を考える会会長 大 熊 孝

12月1日 新潟日報

ラムサールシンポジウム新潟
 —人と湿地と生きものたち—



1996 RAMSAR SYMPOSIUM
 "NIIGATA"

1996年(平成8年)11月28日(木),29日(金),30日(土)

新潟県 新潟市
 新潟市万代市民会館
 新潟市民プラザ
 佐潟・瓢湖・福島潟・鳥屋野潟

主催
 ラムサールシンポジウム新潟実行委員会
 環境庁/新潟県/新潟市/新潟地域実行委員会
 国際湿地保全連合日本委員会/ラムサールセンター

後援
 北海道開発庁/国土庁/外務省/文化庁/農林水産省/通商産業省/運輸省/建設省
 (社)自然資源保全協会/鋼路国際ウェットランドセンター

新潟県教育委員会/新潟市教育委員会/亀田町/巻町/横越町/水原町/建設省北陸地方建設局信濃川下流工事事務所/建設省北陸地方建設局阿賀野川工事事務所/亀田郡土地改良区/新潟県内水面漁業協同組合連合会/信濃川漁業協同組合/鳥屋野潟漁業協同組合/赤塚漁業協同組合/阿賀野川漁業協同組合連合会/新潟商工会議所/(社)新潟青年会議所/赤塚商工会/新潟県連合青年団/(社)日本技術士会北陸支部/新潟日報社/朝日新聞新潟支局/毎日新聞新潟支局/読売新聞新潟支局/信濃毎日新聞社/時事通信社新潟支局/日本経済新聞社/産経新聞新潟支局/日刊工業新聞新潟支局/NHK新潟放送局/BSN新潟放送/NST新潟総合テレビ/TNNテレビ新潟/NT21テレビ新潟21

協力 新潟観光コンベンション協会

このシンポジウムは「地球環境基金」と「公益財団大成建設自然・歴史環境基金」の助成を受けています。

シンポ参加者は、新潟市近郊の佐潟も視察した
 —30日、新潟市赤塚



人と湿地の新たな関係へ入る。新潟市近郊かたわらラムサールシンポ(28日)に参加する委員等約三十名は同日視察した。公園化計画は、全国が長へ四百人が参加。シンポは、新潟市近郊の佐潟(佐潟)の視察(29日)と、同市近郊の佐潟公園の公開説明会(30日)とで構成された。参加者は、視察した佐潟の自然環境の保全を希望し、新たな「佐潟」の創造を求めた。

新潟市の佐潟公園化計画

疑問、注文相次ぐ

新潟市近郊の佐潟(佐潟)は、環境庁の指定を受けたラムサール湿地(重要湿地)である。新潟市は、この佐潟を公園化する計画を立てている。しかし、この計画には、市民や関係者から多くの疑問や注文が寄せられている。佐潟の自然環境を保全しながら、公園化する必要がある。また、公園化による環境の変化も考慮しなければならない。市民は、佐潟の自然環境を保全することを望んでいる。また、公園化による環境の変化も考慮しなければならない。市民は、佐潟の自然環境を保全することを望んでいる。

12月1日 朝日新聞/新潟

「ラムサールシンポ新潟」 佐潟公園整備に批判

新潟市近郊の佐潟(佐潟)は、環境庁の指定を受けたラムサール湿地(重要湿地)である。新潟市は、この佐潟を公園化する計画を立てている。しかし、この計画には、市民や関係者から多くの疑問や注文が寄せられている。佐潟の自然環境を保全しながら、公園化する必要がある。また、公園化による環境の変化も考慮しなければならない。市民は、佐潟の自然環境を保全することを望んでいる。また、公園化による環境の変化も考慮しなければならない。市民は、佐潟の自然環境を保全することを望んでいる。

ラムサールシンポ閉幕 1400人共生論議

新潟市近郊の佐潟(佐潟)は、環境庁の指定を受けたラムサール湿地(重要湿地)である。新潟市は、この佐潟を公園化する計画を立てている。しかし、この計画には、市民や関係者から多くの疑問や注文が寄せられている。佐潟の自然環境を保全しながら、公園化する必要がある。また、公園化による環境の変化も考慮しなければならない。市民は、佐潟の自然環境を保全することを望んでいる。また、公園化による環境の変化も考慮しなければならない。市民は、佐潟の自然環境を保全することを望んでいる。



KODOMOラムサール国際湿地交流inにいがた／2008・8・21



2008.8.22(金) 8

言葉の壁超え自然体感

佐潟 ハス刈りわら細工作り

国内外の子どもたちが湿地の保全活動について話し合い、意思をまとめる。KODOMO M.O.（こども）ラムサール国際湿地交流inにいがたが、十日から新潟県内各地で始まった。二十一日は、国内外の児童の交流活動などをしている子どもたち約七十人が、同市の西区の佐潟のハス刈りわら細工作りを通して、楽しみながら自然と向き合った。

国際湿地交流は、ロシアや中国、韓国、インド、タイの子ども約十五人に加え、佐潟で保全活動をしている五塚小、中学校や、同市北区の福島小で活動する養蜂小の子どもたちなど約百三十人が参加する。

ハス刈りは、突進を前えたハスを刈り出すことで湖の富栄養化を防ぐ。刈り取ったハスの葉はお茶として利用されるなど有効活用されている。

子どもたちはスポンのすそを束ねて上げ、地下根茎を削いで準備を整え、その後、舟が揺れるたびに「ブーッ」と叫び声を上げた。

比較的浅瀬の地点まで移動すると、舟から降りて湖の中に入った。足の付け根ぐらゐまで水につ

KODOMOラムサール会議で採択されたメッセージ

10月末の韓国での第10回締約国会議に届けられる。

「湿地がある、命がある、
ぼくらがつなげて、宝になる。」

「Wetlands are there, Lives are there,
We connect them, They become our treasures.」

ハスを刈り取った。

わら細工作りには、三つほどのかしを作

成。難しい」と話しながら、地元住民から作り

た。

沖田県から参加した小

学四年の太田光希さん

は、「沖田県にある

湖でも遊びをするけ

ど、妙良湖の佐潟は、

どこにもなくて、幸し

い」と笑顔。スズから

十日町市の松代高校に留

まらせた。

又、この日は新潟県

佐潟、だんだん楽しくな

った」と話していた。

国際湿地交流は、十三

日まで開催され、十日に

韓国である「ラムサール

条約第十四回締約国会議

で採択するメッセージを

2019 台日国際シンポジウム ～溜め池と湿地文化を考える～

2019年5月18日・台湾 元智大学人文社会学院会議室にて



台湾～元智大学
日本～日本湿地学会